

つまずきの解消に向けた取組の充実を図りましょう！

今年度の全国学力・学習状況調査の県全体の結果を見ると、徐々に授業改善等の成果が現れ、特に小学校においては「書くこと」に留意した指導の成果につながり、国語の記述問題や算数B問題において、全国平均を上回りました。

更なる学力の向上に当たっては、現在、実施中の「学力定着状況たしかめテスト」の分析を、該当学年の担任だけではなく、学校全体で実施した上で、課題の把握・共有を行うことが大切です。県教育委員会では、昨年度末に作成した「活用に関する問題の解説例」を改訂し、来年1月までには発行する予定です。児童の「学ぶ喜び」や「分かった・できた」を実感できる授業の充実を目指し、年度末までに児童のつまずきの解消を図るべく、学力向上担当者を中心に全教職員で徹底して実践していく取組の充実を図りましょう。

【岡山県の全国学力調査結果】 平均正答率〔%〕（下段は全国平均正答率）

	国語A	国語B	算数A	算数B	国算計
小学校 6年生	72.6 (72.9)	57.5 (57.8)	77.2 (77.6)	47.3 (47.2)	254.6 (255.5)

	国語A	国語B	数学A	数学B	国数計
中学校 3年生	74.7 (75.6)	63.8 (66.5)	60.3 (62.2)	41.4 (44.1)	240.2 (248.4)

- 算数Bで初めて全国平均を上回った。
- 他の問題でも全国平均との差が、 $-0.4 \sim 0.1$ 〔%〕と縮小した。

全国平均との差が、 $-2.7 \sim 0.9$ 〔%〕と縮小した。

着実に成果は上がっています！

一方、次の2問は算数A問題において課題が見られた設問です。自校の解答状況はどうだったでしょうか？

(2) 下の3つの数の中で、いちばん小さい数と、いちばん大きい数を書きましよう。

7.1 7 7.01

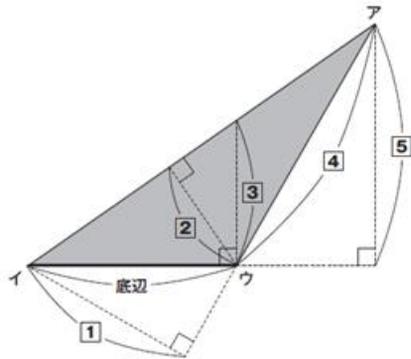
設問 番号	正答率 (%)		無解答率 (%)	
	県	全国	県	全国
A3(2)	70.8	74.1	0.4	0.4



誤答を分析してみると、一番小さい数を7.01と解答している児童がこんなにもいるんだ。数直線を用いて数の大小についてきちんと定着させないと...

下の三角形アイウの面積の求め方を考えます。

辺イウを底辺とすると、三角形アイウの高さはどこの長さになりますか。下の①から⑤までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。



設問 番号	正答率 (%)		無解答率 (%)	
	県	全国	県	全国
A5	76.3	82.0	1.1	1.1

底辺が示してあるのに、どうして③を選ってしまうのだろう。三角形の高さが内部にあると勘違いしているのを解消しないと...



「全国平均より4%低い」という分析に留まるのではなく、「3割程度の児童がつまずいている」と捉え、つまずきの解消を図ることが必要です。

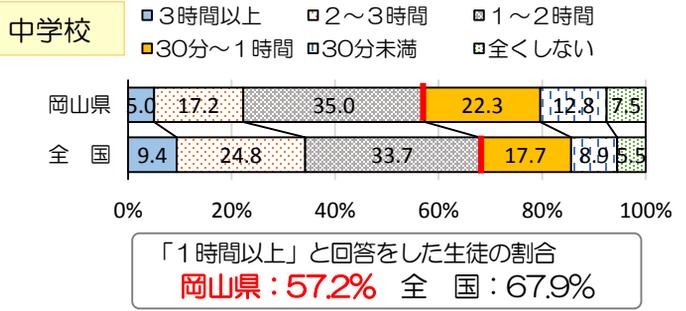
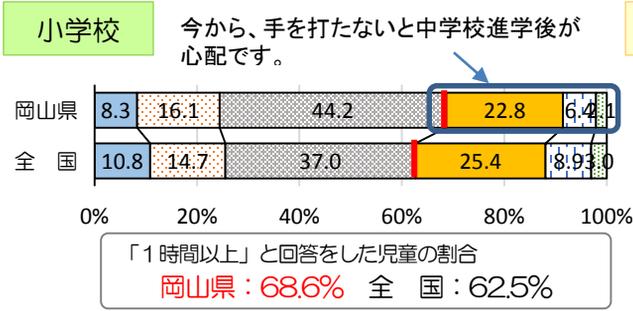
児童の誤答をしっかりと分析することで、何につまずいているのかを明らかにした上で、正しい知識を身に付けさせるに当たっては、どのような手立てを講じる必要があるかを全教職員で考えて、系統的に指導に当たることが必要です。

【→裏面へ】



【学習状況調査結果】

Q: 学校の授業時間以外で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



小学校段階での習慣づくりが重要です！

岡山県の中学生の学習時間は、全国の中3生に比べ-10.7%、本県の小6に比べ-11.4%

■ これからの取組が更に大切になります。

家庭学習習慣を確立することは、「自己管理能力」の育成につながる重要な取組です！ 小学校段階からきちんと家庭学習について指導しておくことが、中学校進学後の学習につながります。宿題だけでなく、自主学習に主体的に取り組むよう、声掛けをしたり、良い取組を紹介したりすることも大切です。どのように取り組めばよいか分かりにくい児童には、義務教育課のホームページから「学びのチャレンジコンテスト」へ進み、家庭学習ノートのコーナーを参考にさせるなどの工夫をすることで意欲の喚起につなげましょう。



2学期中
 ・児童のつまずきの解消を図る。
 ・「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを促す。

冬休み
 適切な冬休みの課題に取組ませる。

3学期中
 「徹底すること」を厳選し、学校全体で、「徹底して取り組む。」

学力定着状況たしかめテスト

年内には、平成28年度の問題を付け加えた「ふりかえりプリント集」をお届けする予定です。また、B問題の解き方は、必ず授業中に解説を行い、「みんなて分かる」から「独りでもできる」ようにさせることが大切です。たしかめテストの結果等の分析も全国学力・学習状況調査同様に実施することも含めて、全教職員で子供たちの確かな学びにつなげていきたいと思います。

